



校長のつぶやき

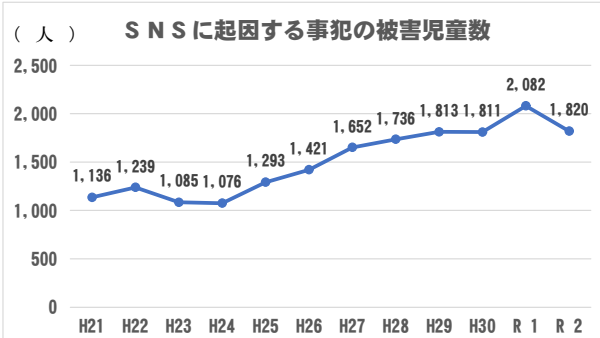
福井市長橋小学校

R 3 . 7 . 1 6

「質問です。校長！子どもの周りには、どんなネット上の危険が潜んでいるの？《その2》」

第8号では、「ネット上のいじめ」についてつぶやきました。今回も引き続き、子どもたちの身の回りに潜んでいる「ネット上の具体的な危険」についてつぶやきます。

【事例2 ネットの利用で被害者に！】



左のグラフは、警察庁が発表した「2020年（令和2年）の犯罪情勢」の暫定値および経年比較を示しているものです。これを見ると、SNSに起因する事犯の被害児童数は、令和2年は1,820人であり、前年からは12.6%減少したものの、平成25年以降増加傾向にあり、平成28年からの過去5年で4.8%増加しています。*「児童」とは18歳に満たない者をいう
このように、多くの子どもたちが被害に遭っていることがわかります。では、どのようなことによって被害者になり得るのか、いくつかの事例を示します。

- まず、前回つぶやいたとおりネット上で悪口や誹謗中傷などのいじめにあった。
- 送られてきたメール等のURLをクリックしたことにより、
 - ①パソコンやスマホがウイルスに感染した。
 - ②不正なサイトへ誘導され、個人情報の流出、高額請求（架空請求）等の被害にあった。
 - ③「無料」という文字にだまされてクリックしたら、高額請求書が届いた。
- 本当の年齢や性別などを知らぬまま、会ったこともない人物とSNS上でやりとりを続けているうちに親密になり、
 - ①しつこく出会いを求められるようになった。
 - ②徐々にエスカレートし、顔や裸の写真を送るようしつこく要求された。
 - ③出会ってみたら、やりとりとまったく違う人物であり、さらに、その人物に連れ去られそう（誘拐されそう）になった。
- SNS上に投稿した写真や人に送った写真等が、
 - ①何者かにより、勝手にネット上に流出した。
 - ②写真の位置情報によって、自宅（所在地）が特定された。
- 自分のプロフィール等を投稿したら、不審な人物から自宅や学校などにつきまとわれるようになった。
- 毎日多くの時間を費やして、オンラインゲームをしていたら、ネット依存症になり、昼夜逆転。体調を崩しはじめ、登校もできなくなり、ついに不登校となってしまった。
- ゲームアプリで戦いに勝ちたいために、レアアイテムを入手しようと課金を続けていたら、何十万円もの請求がきた。（子どもが親のクレジットカード情報を勝手に入力するケースもあり）

※最近のニュース等で、「フィッシング詐欺」という言葉を耳にしたことはないでしょうか。オリンピックの開会を目前にし、オリンピック競技のライブ配信を装ったフィッシング詐欺が増加するおそれがあると、警視庁でも呼びかけをしているところです。
「フィッシング詐欺」とは、申込み手続きなどをしようと、次へ次へと進んでクリックしていくうちに、クレジットカード情報など（ログイン情報）を、ユーザーから盗み出そうとするものです。

※今回も校長のつぶやきにお付き合いいただき、ありがとうございました。次回も子どもたちの身の回りに潜んでいる「ネット上の具体的な危険」について、加害者になってしまう危険についてつぶやきます。